

保育現場で SDGs に取り組もう ～子どもも大人も一緒に～

団体名 ● SDGs と保育(三好ゼミナール)／代表者名 ● 山先詩多(人間科学部こども学科4年)

はじめに(背景・目的・目標)

現在の保育には SDGs を意識し、子どもや保護者、地域の人々と共に達成する役割が求められている。昨年度、金沢泉丘こども園の SDGs に親しむことをねらいとしたイベントにおいて、親子で蜜蝋ラップづくりをするコーナーをゼミで担当した。この経験から、持続可能な社会を目指す目標である SDGs を幼児期の子どもも親しめるよう、地域と連携して、SDGs の取り組みを伝え、活動を行っていくことの重要性を強く感じた。そのため、私たちは地域の保育所等で SDGs を意識した活動を行い、子どもやその保護者が SDGs を達成する行動を意識するようになることを目的に活動を行った。

活動内容

①蜜蝋ラップづくり

昨年度に引き続き、今年度も7月8日に金沢泉丘こども園で、3～5歳児の親子を対象に蜜蝋ラップづくりを行った。親子一組に対して学生一人が付き、蜜蝋ラップの作り方を伝えた。さらに、蜜蝋ラップづくりや SDGs への興味を持つ工夫として、絵本のコーナーを設置した。また、海に流れたプラスチック製のラップを海ガメが間違えて食べてしまうという短い劇も行った。



写真1) 蜜蝋ラップづくりをしている様子

②絵本の読み聞かせ

8月22日に梅光児童園で、「かやもいきをしているだ-おじいちゃんちのひみつ-」という茅葺き文化に関する作成した絵本を読み聞かせした。

③コンポストの活用

11月28日に梅光児童園にコンポストを2つ渡した。学生も学内でコンポストを実践し、子どもたちと一緒に方法や意味について考察した。

成果、結果の考察

活動内容①と③について報告する。まず、①蜜蝋ラップづくりでは、家庭で蜜蝋ラップを活用しようという声が聞かれ、親子の参加が蜜蝋ラップをより身近に感じるものとしていることが分かった。SDGs の達成につながる行動の一つとして蜜蝋ラップを知ったり、絵本を手にとったりすることを通して、SDGs を達成する行動をやってみる「きっかけ」となったのではないかと考える。

③コンポストの活用では、生活の中で出た生ごみや、野菜の切れ端、卵の殻など、普段ゴミとして捨ててしまうモノを堆肥化することで、食の循環を体験的に学ぶことができた。自分が工夫したり、行動したりすることでゴミになるものが肥料になることや、できるだけゴミを減らせるように残さず食べるようにするなど、SDGs を達成する行動を伝えられるのではないかと考えられた。

今後の課題、展望

いずれの活動も単発的であったため、子どもたちが継続して SDGs につながる行動をすることは難しい。そのため、今後の展望として、学生が実体験することで感じた面白さや驚き、感動などをもとに、SDGs につながる活動を段階的・継続的に計画し、実践していく。また、蜜蝋ラップづくりや絵本の読み聞かせなどより多くの保育現場で行っていききたい。